

経営環境

令和5年度の国内経済は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、インバウンド需要が順調に回復する一方、ロシアのウクライナ侵攻長期化や中東情勢不安定化による原材料価格の高騰、インフレ抑制を目的とした世界各国の金融引き締め長期化などの要因もあり、懸念が拭えない不安定な情勢でした。

当地域におきましては、人口流出や高齢化による人手不足などの構造的な問題に加え、原材料・燃料価格の高止まりなど厳しい状況が続きました。

事業の展望と今後の課題

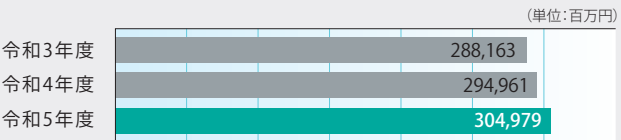
令和6年度は、新3か年経営計画「北星しんきん『未来を拓く変革への挑戦』（～信用金庫の真価の発揮と地域の持続的発展を目指して～）」の初年度にあたります。

新3か年経営計画におきましては、自らの自己変革による変化への適応を図り、地域に根差した真の協同組織金融機関として、役職員が更なる活力を喚起し、お客さま、そして地域が抱える課題の解決に尽力し、幸せづくりと地域社会全体の持続的発展成長を目指しております。

そして、これまでの考動を継承しつつ、蓄積したノウハウから独自性・特性を発揮し、更に未来を拓く変革へ果敢にチャレンジすることを目指してまいります。

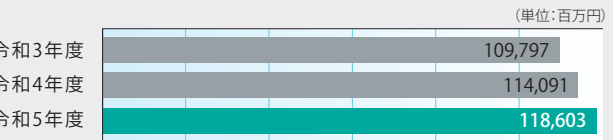
預 金

預金期末残高は3,049億円となりました。流動性預金の伸びが増加の牽引役となりました。



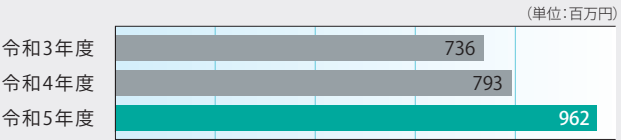
貸出金

貸出金期末残高は1,186億円となりました。賃貸用住宅向け貸出金などを中心に残高が増加しております。



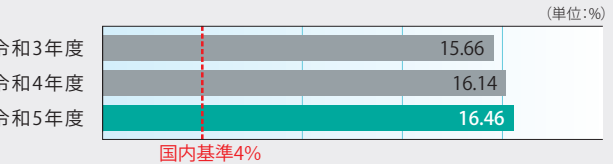
当期純利益

貸出金利息の増加等により、経常利益1,336百万円、当期純利益962百万円といずれも前年を上回る結果となりました。



自己資本比率

自己資本比率は16.46%と前期比0.32ポイント上昇しました。
金融機関の安全性を判断する指標である国内基準の4%を十分上回っており、今後も安定した収益確保により、自己資本の充実に努めてまいります。



最近5年間の主要な経営指標の推移

(単位: 百万円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
経 常 収 益	3,942	3,809	3,950	3,969	4,266
経 常 利 益	826	911	1,020	1,100	1,336
当 期 純 利 益	600	665	736	793	962
出 資 総 額	767	765	758	755	753
出 資 総 口 数 (千 口)	15,357	15,302	15,175	15,105	15,073
会 員 数	18,759人	18,361人	17,585人	17,022人	16,517人
純 資 産 額	22,304	23,152	22,538	20,623	20,730
総 資 産 額	289,725	308,172	313,444	317,524	327,998
預 金 積 金 残 高	264,175	281,654	288,163	294,961	304,979
貸 出 金 残 高	106,478	109,735	109,797	114,091	118,603
有 価 証 券 残 高	125,669	123,290	126,840	120,802	123,298
単 体 自 己 資 本 比 率	15.58%	15.69%	15.66%	16.14%	16.46%
出 資 対 する 配 当 金 (出 資 1 口 当 たり)	2.0 円	2.0 円	2.0 円	2.0 円	2.0 円
役 員 数	14人	14人	14人	14人	13人
う ち 常 勤 役 員 数	8人	8人	8人	8人	7人
職 員 数	181人	175人	174人	176人	176人

(注) 1. 単体自己資本比率は、信用金庫法第89条において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき算出しております。